

バランスシート・行政コスト計算書で わかる町の資産と負債

バランスシートや行政コスト計算書はなぜ必要なのでしょう？

現在の地方自治体の決算書は「歳入歳出決算書」と呼ばれ、歳入歳出を対比させるものです。

しかしこの歳入歳出決算書では、町が本当の意味で黒字なのか、赤字なのかは分からないのです。歳入より歳出が大きく赤字になりそうであれば貯金を取り崩せば黒字にすることが出来ます。

さらに施設を建設した際に代金を支払いますが、これは同時に資産となるので支払った代金全てが費用となったわけではありませぬ。みなさんが家を建てて建設代を払っても家は資産として残りますね。むしろこれから年々減価していった価値がいくらなのかが大事なのです。

このように地方公共団体の公会計は単年度の現金主義であることが特徴であり、1年間の収入がどのような目的で使用された

かを明らかにすることが主な目的で、過去に支出した金銭により形成された資産の状況は表示されません。そこで民間企業が用いている「企業会計的な手法」を導入して、町が行政サービスを提供するためにどのくらいの資産を保有し、その資産を保有するのためにこれまでの世代がどれだけの負担したのか、これからの世代の負担する金額はいくらなのかを明らかにするために「バランスシート」を作成しました。

そして、歳入歳出決算書では池田町が行政サービスをを行ううえでいくらか経費をかけてその対価の収入がいくらかあるのかが分かりません。よって人件費、福祉サービス、各種団体への補助金、維持管理費などに現金支出を伴わない減価償却費等を含め資産形成につながるコストを計算し、それに伴う収入を計算します。それにより行政サービスのコストと収入の差し引きである収支が、

いくら黒字又は税金等を補填しているのかを知るために「行政コスト計算書」を作成しました。

そもそもバランスシートとはどんなものですか？

バランスシート（貸借対照表）とは、一定の時点において保有するすべての資産、負債等のストックの状況を総括的に表示した報告書です。バランスシートでは、図のように、借方（左側）には資産、貸方（右側）には負債と正味資産が表示され、資産＝負債＋正味資産という関係にあります。

負債と正味資産は、行政活動に必要な資金がどこからきたか（資金の調達）を、資産はその調達した資金を何に使ったか（資金の用途）を表しています。町の財産、町債などの債務の状況や償還能力を明らかにしてバランスシートを見ることにより、町にどのような財産がいくらあるのか、住民負

バランスシートの比較表（平成17年度・平成16年度）

（単位：千円）

借方科目	平成17年度	平成16年度	増減	貸方科目	平成17年度	平成16年度	増減
【資産の部】				【負債の部】			
1.有形固定資産	27,483,380	27,352,154	131,226	1.地方債	6,393,906	5,875,462	518,444
（うち土地）	8,268,067	7,995,044	273,023	2.退職給与引当金等	700,077	671,065	29,012
2.投資的資産	1,372,633	1,331,997	40,636	負債合計	7,093,983	6,546,527	547,456
投資及び出資金、貸付金				【正味資産の部】			
特定目的基金等				1.国庫支出金	1,841,243	1,617,431	223,812
退職手当組合積立金				2.県支出金	1,773,521	1,827,548	△54,027
3.流動資産	1,722,328	1,669,797	52,531	3.一般財源等	19,869,594	20,362,442	△492,848
現金・預金及び未収金				正味資産合計	23,484,358	23,807,421	△323,063
資産合計	30,578,341	30,353,948	224,393	負債・正味資産合計	30,578,341	30,353,948	224,393

債務負担行為に関する情報（平成17年度）

①物件の購入にかかるもの	681,728 千円
②債務保証又は損失補償にかかるもの	1,376,367 千円
③利子補給にかかるもの	357 千円

債務負担行為に関する情報（平成16年度）

①物件の購入にかかるもの	78,652 千円
②債務保証又は損失補償にかかるもの	2,923,238 千円
③利子補給にかかるもの	418 千円